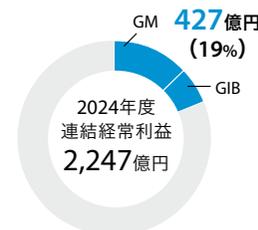


グローバル・マーケット&インベストメント・バンキング戦略

グローバル・マーケット&インベストメント・バンキング部門は、機関投資家などを対象に有価証券のセールスおよびトレーディングを行うグローバル・マーケットと、事業法人、金融法人などが発行する有価証券の引受けやM&Aアドバイザー業務を行うグローバル・インベストメント・バンキングによって構成されています。

GM&IB部門の経常利益



主な構成会社

- 大和証券
- 大和証券キャピタル・マーケットズヨーロッパリミテッド
- 大和証券キャピタル・マーケットズ 香港リミテッド*
- 大和証券キャピタル・マーケットズシンガポールリミテッド*
- 大和証券キャピタル・マーケットズアメリカ Inc.

拠点所在地.....世界**22**カ国・地域
 引受高、募集・売出しの取扱高.....株券**1兆4,554**億円
 債券**10.3**兆円

* ウェルスマネジメント部門にも属する

環境認識

- GM** ▷ 近年のインフレによる金融・財政政策の変化 ▷ 地政学リスクに伴うグローバル経済環境の不透明感の継続 ▷ ESGに対する投資家、発行体のさらなる意識の高まりと行動 ▷ テクノロジーの進化を受けた異業種参入に伴う競争環境の変化
- GIB** ▷ 金利上昇、インフレの継続 ▷ 地政学リスクを踏まえた企業行動の拡大 ▷ 企業のガバナンスや効率性を求める投資家の影響力の拡大 ▷ 企業活動に対する高い環境対策の要請 ▷ スタートアップ企業をサポートする手段の多様化

強み

- GM** ▷ 海外拠点網の活用による国内外横断的な商品・情報提供力
 ▷ 強固かつ高度な株式・債券の執行プラットフォーム
 ▷ 業界トップ水準のリサーチクオリティ
- GIB** ▷ 多様なプロダクト・高度なソリューション提供力
 ▷ グローバルM&Aアドバイザー網
 ▷ 国内上場企業および未公開企業をカバーする法人営業体制

事業リスク

- GM** ▷ トレーディング業務において、急激な市況変動による市場流動性の低下に伴う損失リスク
 ▷ ブローカレッジ業務において、投資家の投資需要の低調やリスクを避ける投資行動による収益減少リスク
 ▷ 大規模な取引システムへの投資リスク、およびシステム障害が発生するリスク
- GIB** ▷ M&Aアドバイザー業務において、市況の影響で取引規模が減少するリスク
 ▷ 引受業務において、引き受けた証券が円滑に販売できないリスク
 ▷ 有価証券の募集・売出しに係る発行開示が適切になされず、引受会社として投資家から損害賠償を受けるリスク



田澤 健一
 グローバル・マーケット担当

2024年度の経常利益は290億円となりました。エクイティは海外投資家の日本株フローが約3割増加して好調に推移し、FICCでは国内金利が復活するなか、投資家のニーズ変化に伴う取引も

活発化しました。今後についても、企業のコーポレートアクションの増加や、金利水準の上昇に伴い、投資家の行動変化が継続していくためオーダーフローの拡大を見込んでいます。外部環境の変化を活かし、幅広いお客様ニーズを捉えた多様なプロダクトと高度なソリューションを提供し、他部門との連携をより一層深め、トレーディング収益の拡大を目指しています。



山本 徹
 グローバル・インベストメント・バンキング担当

2024年度は、あらゆるプロダクトで実績を積み重ねた結果、経常利益は116億円とセグメント開示を開始した2010年度以降で最高となりました。コーポレート・ガバナンス改革や資本効率性

の向上を目的としたコーポレートアクションの活発化、さらには成長戦略としての買収やMBOなど、M&Aを検討する国内企業のすそ野は拡大し、日本企業を取り巻く構造的な変化が追い風となっています。今後も、多様化・高度化するお客様のニーズを的確に捉え、付加価値の高いソリューションを提供することで、お客様の企業価値の持続的な向上に貢献していきます。

グローバル・マーケット&インベストメント・バンキング戦略(グローバル・マーケット)

グローバル・マーケットの役割

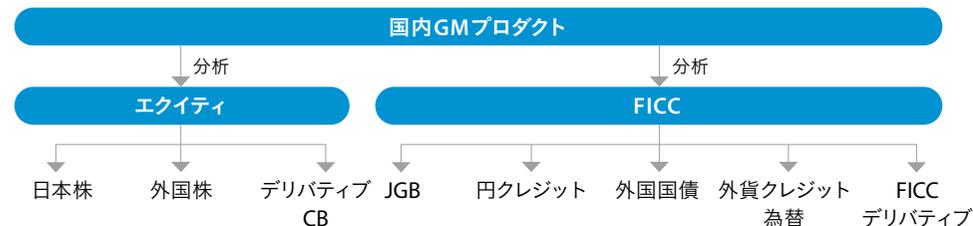
グローバル・マーケットを取り巻く外部環境は大きく変化しており、ビジネスチャンスが増加が期待されます。企業の投資活動の活発化や資本効率を意識した動き、また金利上昇に伴う運用ポートフォリオの再構築といった新たな顧客ニーズに対応していきます。

- 株式・債券発行の増加** ▶ 機関投資家への募集、営業店向けの販売サポート
- 政策保有株式の売却** ▶ 売主に執行スキームの提供
▶ 内外投資家への販売
- 投資案件の増加** ▶ 為替予約取引の提供など、企業の資金サポート
- 運用リターン改善** ▶ オルタナティブ投資など、新たな投資戦略の提供

資本効率向上に向けて

グローバル・マーケットは、資本効率を意識した取組みとして、リスクアペタイトフレームワークにもとづくリスク管理に加え、デスクごとの資本効率性を分析しています。

具体的には、プロダクト別のROEを継続的に計測し、ビジネスラインごとにフィードバックすると同時に、FICCでは2024年度下期から計画ベースROEを作成し、事後検証を行っています。



アナリストランキング

大和証券のリサーチ部門は、日本で最も伝統ある調査機関のひとつであり、ファンダメンタルズ重視の分析姿勢を一貫して守り続けています。結果として、日経ヴェリタス、Extelのアナリストランキングにおいて多数のランキング上位者を輩出しています。

2025年アナリストランキング上位者

エクイティ (ランキング1位)

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
|  |  |  |  |  |
| 佐渡 拓実 (電子部品) | 箱守 英治 (自動車) | 橋口 和明 (医薬品) | 平川 教嗣 (ガラス・紙パ・ その他素材) | 田井 宏介 (機械、造船・ プラント) |
|  |  |  |  |  |
| 寺岡 秀明 (建設) | 西川 周作 (商社・エネルギー) | 関根 哲 (レジャー・ アミューズメント) | 木野内 栄治 (テクニカル アナリスト) | 家入 直希 (Sustainability ESG) |

FICC (ランキング上位)

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
|  |  |  |  |  |
| 谷 栄一郎 (債券) | 山本 賢治 (エコノミスト) | 多田出 健太 (為替) | 瀧 文雄 (クレジット) | 松坂 貴生 (クレジット) |
|  |  | | | |
| 松下 浩司 (証券化) | 尾谷 俊 (証券化) | | | |

グローバル・マーケット&インベストメント・バンキング戦略(グローバル・インベストメント・バンキング)

引受分野

2024年度の株式調達市場は前年度から大幅な伸びを示し、大型引受案件や政策保有株式の売却案件などで主幹事を務め、エクイティ関連の収益が大幅に増加しました。また、金利上昇局面においても債券市場は安定した規模を維持し、デット引受案件において多数の実績を積み重ねました。

大和証券は、幅広いテーマの案件で引受手腕を発揮した結果、「DEALWATCH AWARDS 2024」において総合部門ハウス・オブ・ザ・イヤーを受賞しました。当社グループの引受けビジネスは、WMやGMとの連携により、フロー収益および資産導入にも大きく貢献しています。

リーグテーブルは大幅に改善

デットは、普通社債・地方債・SDGs債で1位を達成
M&Aは、活況な市場環境で収益を拡大

| | | 2023年度 | 2024年度 |
|--------------------|-------------------|--------|--------|
| ■ : 2023年度からランクアップ | | | |
| エクイティ | PO | 3位 | 3位 |
| | CB | 2位 | 4位 |
| | IPO | 3位 | 2位 ▲ |
| | REIT | 5位 | 6位 |
| デット | 普通社債(自社債除く) | 3位 | 1位 ▲ |
| | 財投機関債 | 2位 | 2位 |
| | 地方債 | 2位 | 1位 ▲ |
| | サムライ債(自社債除く) | 5位 | 3位 ▲ |
| | 機構RMBS | 2位 | 5位 |
| | SDGs債 | 3位 | 1位 ▲ |
| M&A | 金額ベース*1 | 6位 | 4位 ▲ |
| | 件数ベース*2 | 5位 | 4位 ▲ |
| | グローバルミッドキャップM&A*3 | 16位 | 7位 ▲ |

*1 LSEGベース(国内ミッドキャップ: 500万米ドル以上10億米ドル以下、会計系除く)
*2 Merger market ベース(会計系除く)
*3 Merger market ベース(5億米ドル以下の全地域のM&A案件、会計系除く)

M&A分野

M&A分野では、国内外で体制強化に取り組み、2024年度のグローバルミッドキャップのM&Aランキングで前年16位から7位にランクアップし、大きく実績を伸ばしました。

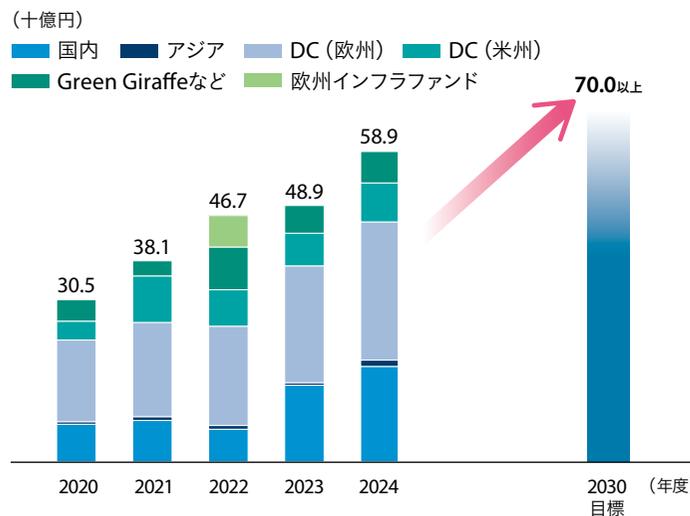
当社グループのM&A関連収益は589億円で過去最高となり、2030年度目標の700億円以上に向かって順調に拡大しています。加えて、テーマ型ソリューションの提供に注力した結果、国内で大型M&A案件への関与件数が飛躍的に増加し、収益性が向上しました。

今後も、当社の強みを発揮できるビジネス領域で、収益拡大に向けて注力する方針です。

今後の重点施策

足元の事業環境を踏まえ、引き続き(1)未上場企業へのアプローチ強化、(2)テーマ型ソリューションの提供の推進による大型案件への関与増、(3)国内・海外M&Aの体制強化、を軸に収益拡大を図ります。

M&A関連収益の推移と計画



大型案件への当社関与率

